

令和3年度

租税教育実践発表会資料



女川町立女川中学校
教諭 沖田 淳

1 はじめに

「租税」と聞いて、誰しもがまず思い浮かべるのは、「負担感」と言えるのではないでしょう。これは、中学生でも同じです。令和元年の10月に消費税が8%から10%に引き上げられてからは、特にその気持ちが強くなっているようです。しかし、その一方で、国および地方公共団体の財政が、かなり厳しい状況にあるのも事実です。特に、高齢化社会をどう切り抜けていくかは深刻な問題です。その対策の1つとして、高齢化のピークを迎えると予想される西暦2025年までに現役世代の保険料負担を26%に引き上げるとともに、公的年金の給付水準を大幅に削減する案が検討されているそうです（朝日新聞1997年11月1日朝刊）。そして、その現役世代に当たるのが現在の中学生たちであり、年金を給付される側になるのが私自身なのです。

このような状況の中で、納税の負担感だけを強調し、不平不満を言っているだけでは何の解決にもなりません。そこで、これらの問題を自分たちの問題としてとらえ、よりよい「生き方」を自分なりに選択したりしていく上での僅かながらでも糧となってくれることを祈りながら、本実践を行ってみました。

これは、平成9年度の租税教育実践発表会で実践発表した私の原稿の冒頭の一文である。あれから二十年以上の歳月が流れたが、税をめぐる問題状況には何ら変化がないように思われる。むしろ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、状況は更に深刻になっていると感じる。しかし、そのような中であっても、日経平均株価が3万円を突破し、バブル景気以来の高値を付けている。そして、この相反する状況の中で、ますます経済格差が拡大しており、「だれが、税をどのように負担し、どのように使っていくか。」という問題は、より切実なものとなっている。

このような中で、20年以上前に抱いた「これらの問題を“自分事”としてとらえ、『持続可能な社会』の在り方について考えたり、さらには、自らのよりよい『生き方』を生徒たちが自分なりに選択したりしていく上で、きっかけとなるような授業を行っていきたい」という思いを改めて強く感じている。

2 指導にあたって

(1) 生徒の実態（税に関するアンケート結果から）

現在の生徒たちは、税金に対して、どのような思いを抱いているのだろうか。それを探るべく、「税金について、あなたはどう思うか。」と質問した。生徒たちの思いは、昔も今も変わらないだろうという私の予想に反し、「税金がなければ、自分たちは今の生活ができないので必要だ。」「社会を作るために必要なお金」「なくてはならないもの」などと、実に8割の生徒が肯定的に捉えている。この結果は、小学校から行われている租税教育の成果と言えるのかもしれない。一方、税を否定的に捉えている生徒は、「高い」「なくていい」「嫌だ」などと、さしたる根拠等はなく、感覚的に回答している傾向が見られる。

また、「税が何に使われているかを知っているか。」の質問には、「警察や消防」「学校や道路の建設など生活の中で使われている。」など、「税金にはどのようなもの（種類）があるかを知っているか。」には、「消費税」が最も多く、「収入が多くなるほど税金が高くなる制度（累進課税）についてどう思うか。」に関しては、無回答が多い等、断片的な知識は持っているが、ごく一部の生徒を除いて、ほとんどの生徒が、税に関して不十分な知識しか身に付いていない。さらに、「実感」を伴う形で、すなわち“自分事”として税の在り方について考えることの重要性を感じていないという実態がうかがわれる。

(2) 租税教育の目標（学習指導要領と教科書の学習内容との関連から）

① 学習指導要領との関連

学習指導要領（中学校社会科公民的分野〈内容〉B 私たちと経済(2) 国民の生活と政府の役

割) に示されている税に関する学習を通して身に付けさせたい学力を、「評価の3観点」に基づいて整理すると次のようになる。これを租税教育の目標として設定した。

<知識・技能>

- 財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。

<思考力、判断力、表現力等>

- 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。

<学びに向かう力・人間性等>

- 国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

② 教科書の学習内容との関連

本校では、東京書籍『新しい公民』を教科書として使用しており、租税教育に直接的に関わる学習内容は、第4章第4節「財政と国民の福祉」に当たる。特に、第1項「私たちの生活と財政」では、学習課題「私たちが納める税金はどのように使われているのでしょうか。」を受けて、財政の仕組み、様々な税金、税金の公平性の3点から税金に関して学習することになっている。また、その後の項で、社会保障や少子高齢化と税の関連について扱っていくことになっている。

項	主な学習内容	税に関わる学習活動
1	私たちの生活と財政	・税金の種類や仕組みについて理解する。 ・公正の観点から税金の負担について考える。
2	財政の役割と課題	・税がどのように使われているかを理解する。 ・財政政策における税の役割を考える。
3	社会保障の仕組み	・社会保障制度の在り方と税の関係を考える。
4	少子高齢化と財政	・少子高齢化と世代に応じた保険料や税の負担の在り方を考える。

(3) 指導の方針と留意点

- ① 教師が教え、確実に習得させるべき学習段階と、習得した事項を生かして考えさせるべき学習段階に分けて、生徒の思考過程も踏まえて、学習事項を構成し、指導を進める。
- ② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から生徒同士による話し合い活動は行わないことにする。また、知識の確実な習得を目指して、しっかりと教え込むために、あえて一斉授業型スタイルでの授業を試行することにする。
- ③ 税に関する基礎的な知識の定着を目指して、2段階での学習を行う。
 - ・まず、家庭学習での予習として、生徒たちは、学習課題プリントを用いて、教科書の内容に関する学習内容について自己学習に取り組んでいくことにする。
 - ・次に、授業の前半では、『中学校社会科用学習資料 私たちの暮らしと税 令和3年度版』（宮城県租税教育推進協議会、仙台国税局作成）を中心資料として、国や地方公共団体が行っている仕事の概要と税金との関わりについて、教師の説明を中心に授業を進める。
- ④ ICTを活用し、資料をプロジェクターで投影し、資料のどの部分の説明を行っているのかを生徒に確実に把握させた上で授業を行うことにより生徒の理解の促進を図る。
- ⑤ 学習指導要領には、内容の取扱い方に関して、『「財政及び租税の役割」については、財源の確保と配分という観点から、財政の現状や少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現させること。』との記述がある。そこで、習得した学習事項を生かして生徒に考えさせる場面では、「財源の確保」と「(税の)配分」の視点を重視して授業構成を考える。

3 授業実践の概要（第1時「私たちの生活と財政」に関して、教師が、生徒にどのような働き掛けを行ったかを中心に記述した。）

階	学習・指導の過程 ○は教師の指示・説明・発問等を、※は留意事項を示す。
予習	<p>1. 予習を家庭学習で行い、学習内容の概要をつかむ。</p> <p>※ 教科書の記述内容に沿って構成した学習課題プリントを用意し、生徒が、予習として各自自己学習し、税に関する学習内容の概要を把握してくるよう指示した。それを本時の授業での学習につなげる。</p>
導入	<p>2. 本時の学習課題の把握と学習の流れについて確認する。</p> <p>○予習で、一通り税の役割や種類について学習してもらいましたが、今日は、さらに、この資料『私たちの暮らしと税』を使って、税金について理解を深めていきましょう。</p>
展開 ① 知識の習得の段階	<p>3. 税金の種類について理解する。</p> <p>(1) どのような時に、どのような税金を負担しているのかを確認する。</p> <p>○まず、資料の2ページ「税金の種類を見よう」を見てください。税には、このようなものがあります。(※資料をもとに主なものに触れる。)</p> <p>○さて、次の文章の中に、どのような税が関係しているか？それを参考にして考えてみてください。(※タブレットの画面の次の文章をプロジェクターで提示し、読み上げた。)</p> <div data-bbox="300 887 1382 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんは、女川町に家を建てて住んでいます。会社を経営しており、年間1,000万円の給料を得ています。また、酒とたばこが大好きです。先月、お父さんが死んだので、一億円の遺産が入りました。さらに、お母さんから2,000万円のお小遣いももらいました。ある日、Aさんは、ドイツ製の車がほしくなったので、3,000万円で買いました。その車で、ゴルフに出かけ、途中でガソリンを入れ、その隣にあったコンビニのイトインコーナーで、サンドイッチとコーヒーを食べました。ゴルフが終わった後、近くにある温泉で汗を流してから家に帰りました。</p> </div> <p>○ある面では、何気ない日常生活とも言えますが、実は、このように様々な種類の税金が関係しています。(※次の文章をプロジェクターで提示し、補足説明を行った。)</p> <div data-bbox="300 1274 1382 1704" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんは、女川町に家を建てて住んでいます(消費税・固定資産税・住民税)。会社を経営(法人税)しており、年間1,000万円の給料(所得税)を得ています。また、酒とたばこが大好きです(酒税・たばこ消費税)。先月、お父さんが死んだので、一億円の遺産(相続税)が入りました。さらに、お母さんから2,000万円のお小遣い(贈与税)ももらいました。ある日、Aさんは、ドイツ製(関税)の車(各種自動車関連の税)がほしくなったので、3,000万円で買いました(消費税)。その車で、ゴルフ(ゴルフ場使用税)に出かけ、途中でガソリン(揮発油税)を入れ、その隣にあったコンビニのイトインコーナーで、サンドイッチとコーヒーを食べました(消費税)。ゴルフが終わった後、近くにある温泉(入湯税)で汗を流してから家に帰りました。</p> </div> <p>○ところで、税金は、国によって異なります。世界には、このような税もあります。(※独身税、ポテトチップス税、脂肪税、砂糖税、渋滞税、犬税などに触れた。)</p> <p>(2) 税金には、国税と地方税、直接税と間接税の区別があることを理解する。</p> <p>○資料の中に「国税」「地方税」という区別、また、地方税には、「都道府県税」と「市町村税」という区別があります。これは、税金をどこに納めるのか、別な言い方をすれば、どこが税金をとっているのかということを示しています。例えば、たばこ税は、宮城県と女川町が、それぞれとっています。そのため、タバコ屋さんには、「たばこは町内で買しましょう。」という掲示物があります。</p>

○次に、「直接税」と「間接税」の違いを説明します。税を納める義務のある人＝納税者と言います。税を実際に負担する人＝担税者と言います。それが、同じ人の場合には、「直接税」、違う人の場合は、「間接税」と言います。一番分かりやすいのは、消費税です。消費税を納めなければならないのは、商品を買った人ですが、実際に納めているのはお店の人です。お店の人が、税を納めなければならない買った人によって変わって代わりに、つまり、間接的に納めるという形になるので、「間接税」という言い方をします。

4. 税の意義を理解する。

(1) 税が何に使われているのかを確認する。

○日常生活の様々な場面で、様々な税金を納めなければならないことが分かったと思いますが、ところで、こうして納めた税金は何に使われているのでしょうか。資料の1ページ「税金はなぜ必要か」を見てください。(※資料の記述に基づいて補足説明をしながら自分たちの日々の生活に関わっている事項に税が関係していることを確認した。)

(2) 税の必要性を確認する。

○もし、これらのことがなくなったらあなたはどうしますか。自分で何とかするか、お金を出して誰かにやってもらわなければなりません。それだけの仕事をあなたはできるのでしょうか。また、それだけのお金を、あなたは出せるのでしょうか。かなり難しいと思います。しかし、一人の力では、どうしようもないけれど、多くの人が、お金を出し合うことでできることがあります。そこで、税金が必要となってくるのです。

○ところで、世界には、税金がない国があると思いますか。実は、あります。それは、地理で勉強した世界で一番面積の小さい国であるバチカン市国です。バチカン市国には、ローマ教皇が住んでおり、キリスト教のカトリック教会の中心地となっています。そのため、世界中から寄付金が集まってくるので、税金をとる必要がないそうです。

○また、中東の産油国には、国が石油を外国に売って稼いでいるので、国民から高い税金を集めなくてもよい国があるそうです。この新しい校舎を作るにあたって多額の寄付をしてくれた国であるカタールも、所得税も消費税も無いのに、無料で医療や教育が受けられるそうです。

○しかし、日本には、それほど多くの寄付が集まってきませんし、資源も少ないので、他の国から買ってきています。したがって税金をなくすことはできません。税金は、みんなの生活に使われており、道路や橋、学校、病院も税金で建てられています。もし、それがなくなれば、自分たちの生活が成り立たなくなってしまうのです。

5. 税の仕組みを理解する。

(1) 所得税における「累進課税制度」を知る。

○税金の額が、どのように決められているかを見てください。資料の3ページを見てください。この表が意味しているのは、所得が多くなるにつれて、所得税の税率が高くなるということです。つまり、お金をたくさん稼いでいる人には、たくさん税金を払ってもらい、収入の少ない人は、税金を少なくしようという制度です。これを「累進課税制度」と言います。

(2) 消費税の仕組みを知る。

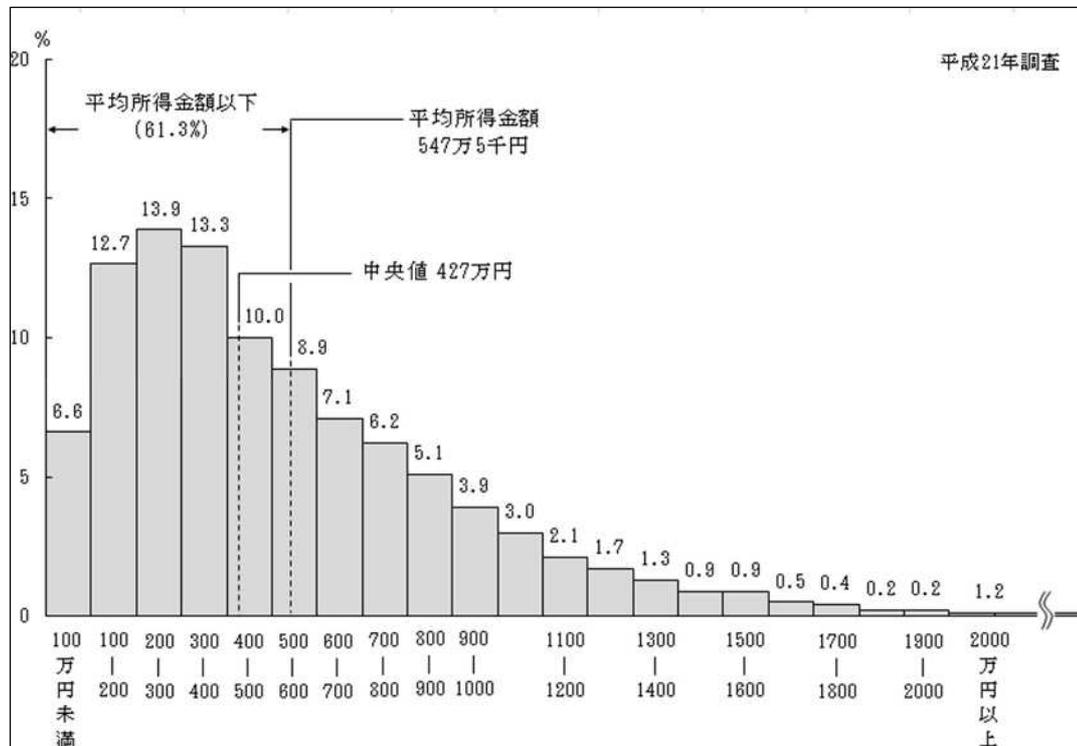
○次に消費税を見てください。消費税は、子供であろうが、大人であろうが、若者であろうが、お年寄りであろうが、金持ちであろうが、貧乏であろうが、同じ、税率が適用されています。現在、日本の消費税は10%です。1,000円の物を買えば、100円の消費税が発生するので、合計1,100円をお店に支払わなければなりません。

○ところで、コンビニで食料品を買ったときに、そのまま持ち帰るとイートインコーナーで食べるのでは、税率が違うのを知っていますか。イートインコーナーで食べると消

	<p>費税は10%、家に持ち帰って食べると8%です。これは、「軽減税率」と言って、消費税の逆進性を少なくしようという手立てなのです。皆さんもコンビニで買い物をする時には注意してください。「逆進性」については、後で説明します。</p>																						
<p>展開 習得 した 知識 の 活用 の 段階</p>	<p>6. 「公平性」の観点から税の負担について考える。</p> <p>○さて、これまで、税の種類や仕組みなどについて学習してきましたが、次に「公平性」という観点から税金について考えてみましょう。</p> <p>(1) 消費税の公平性について考える。(消費税の「逆進性」を理解する。)</p> <p>○まず、消費税の公平性について考えてみましょう。</p> <p>② 例えば、一か月に食事のために、5万円の食料品を買うと、消費税は、軽減税率が適用されて、5万円×8%で、4,000円になります。誰もが同じ税を負担することになるので、数字だけ見ると「公平」と言えますね。</p> <p>○しかし、ここで別の視点から考えてみましょう。</p> <p>①一日に、100万円の収入がある人にとっての4,000円 ②一日に、5,000円の収入がある人にとっての4,000円</p> <p><板書> (※一か月の生活費として、何に、どのくらいかかるかを補足説明した。)</p> <table border="1" data-bbox="292 797 1386 887"> <tr> <td>一日、100万円</td> <td>食費 5万円</td> <td>消費税 4,000円</td> <td>「公平」?</td> </tr> <tr> <td>一日、5,000円</td> <td>食費 5万円</td> <td>消費税 4,000円</td> <td></td> </tr> </table> <p>この場合の消費税の4,000円は、「公平」と言えますか。</p> <p>同じ4,000円ですが、収入が多い人にとっての4,000円と、収入が少ない人にとっての4,000円は、同じ価値でしょうか。収入が少ない人にとっては、4,000円は大きな出費です。一日の収入に近い金額なのです。このように、消費税は、収入の少ない人ほど、負担が大きくなります。これを「逆進性」と言います。これは、「公平」と言えるのでしょうか。皆さんは、どう思いますか。(※少し時間を取り考えさせる。その後、様々な意見が出てきたが、傾聴はするが、あえてそれには答えず次に進む。)</p> <p>(2) 所得税の公平性について考える。</p> <p>○次に、所得税の公平性について考えてみましょう。</p> <p>実際には、所得税の計算は複雑になりますが、ここでは単純に考えます。例えば、</p> <p>①一日に、100万円の収入のある人は、一年365日休みなく働いたとすると、 年収は、3億6500万円なので、税率は45%で、所得税は、1億6425万円となり、 更に、一日あたりで考えると、一日の税金は45万円で、55万円が残ります。</p> <p>②一日に、5,000円の収入のある人は、一年間休みなく働いたとすると、 年収は、1,825,000円なので、税率は5%で、所得税は、91,250円 一日あたりで考えると、一日の税金は250円、残金は、4,750円です。</p> <p><板書></p> <table border="1" data-bbox="292 1615 1386 1704"> <tr> <td>一日100万円</td> <td>3億6500万円</td> <td>税率45%</td> <td>1億6425万円</td> <td>45万円</td> <td>55万円</td> <td>「公平」?</td> </tr> <tr> <td>一日5,000円</td> <td>1,825,000円</td> <td>税率5%</td> <td>91,250円</td> <td>250円</td> <td>4,750円</td> <td></td> </tr> </table> <p>この場合の所得税は、「公平」だと言えますか。所得税は、所得が多くなるにつれて、税金として納めなければならない金額が多くなる「累進課税制度」がとられていることを学習しましたが、これは、「公平」と言えるのでしょうか。単純に数字だけ見れば、明らかに「不公平」だと思いませんか。(※ここでも間を取るが、答えは出さない。)</p> <p>○そこで、別の視点から考えてみましょう。</p> <p>このグラフを見てください (<資料> 「所得金額階級別にみた世帯数の相対度数分布」をプロジェクターで提示する)。これは、厚生労働省で出している「所得の分布状況」を示しています。それぞれの所得の段階別に、その割合をグラフ化したものです。これ</p>	一日、100万円	食費 5万円	消費税 4,000円	「公平」?	一日、5,000円	食費 5万円	消費税 4,000円		一日100万円	3億6500万円	税率45%	1億6425万円	45万円	55万円	「公平」?	一日5,000円	1,825,000円	税率5%	91,250円	250円	4,750円	
一日、100万円	食費 5万円	消費税 4,000円	「公平」?																				
一日、5,000円	食費 5万円	消費税 4,000円																					
一日100万円	3億6500万円	税率45%	1億6425万円	45万円	55万円	「公平」?																	
一日5,000円	1,825,000円	税率5%	91,250円	250円	4,750円																		

を見ると、「200～300万円未満」が13.9%、「300～400万円未満」が13.3%と多くなっており、中央値、これは集団のデータを小さい順に並べた時に中央に位置する値ですが、427万円であり、平均所得金額（547万5千円）以下の割合は61.3%となっていることが分かります。つまり、日本の多くの家族が、この程度の所得を得て生活しているのであり、いわゆるお金持ちの人たちは、ごく一部の人たちなのです。ちなみに、国会議員の所得は、日本の全世帯のわずか1.2%の2000万円以上に入っています。

<資料> 所得金額階級別にみた世帯数の相対度数分布



- これは、平成21年の調査ですが、現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で、特にお店をやっている人たちは、店を開けられない、店がつぶれた、などという大変厳しい状況にあります。さらに、そうなると、そこで働いている人も仕事を失うことになるなど悪循環に陥り、自殺者が増え、なんと餓死者も出るという問題まで起きています。そのため、多くの人たちの所得額はもっと低くなっているかもしれません。
- ところで、日本では、世帯の所得が、家族一人ですら112万円、2人家族で約175万円、4人であれば224万円が「貧困」と言われるラインとなります。しかし、所得の少ない人たちは決して怠けているのではないのです。いくつかの仕事を掛け持ちして、長時間働いているのに、賃金が安いために、所得が少ないのです。前に人権に関して学習したときに、女性差別についても取り上げましたが、シングルマザーとか、母子家庭と言われる人たちが世帯の半数近くが貧困状態にあり、本当にギリギリの生活をしている人が多いのです。また、その影響は、当然子どもにも生じます。なんと日本の子どもの7人に1人が貧困状態にあると言われていています。そして、それが、新型コロナウイルス感染症のためにもっと厳しい状態になっているのです。
- さて、改めて皆さんに聞きます。このような状況を踏まえて考えたときに、所得税における累進課税は「不公平」だと思いますか。(※少し時間を取り考えさせる。)
- 人は、いつ、何が、病気、失業などにより生活が困難になるかもしれません。今回の新型コロナウイルス感染症に関して起こっている様々な問題は、このことを改めて教えてくれていると言えるのではないのでしょうか。ところが、新型コロナウイルス感染症によって苦しい生活を送っている人がいる中で、株価は、バブル景気以来の3万円台に突

	<p>入しています。儲かっている会社が多いのです。世の中というのは不思議なもので、苦しく不幸な思いをしている人がいる中で、逆に、お金を得て、幸せな生活を送っている人もいます。</p> <p>○こうして考えてみると分かるように、税金には、「助け合い」の側面もあるのです。別の時間に改めて学習しますが、これを「所得の再分配」と言います。</p> <p>(3) ベーシックインカム、負の所得税という考え方を紹介する。</p> <p>○ところで、地理や歴史の勉強で何度も出てきているSDGs、持続可能な開発目標の第一は、「貧困をなくそう」です。この目標を達成していく上でも「税制をどうするか。」という問題は、重要な問題です。そこで、最後に、税による貧困対策として二つの考え方を紹介します。これは、今回の衆議院議員選挙でも政権公約として出してくる党があるのではないかとされているものでもあります。</p> <p>○まず、一つ目は、「ベーシックインカム」と言われるものです。これは、簡単に言うと全ての国民が最低限の生活を送れるように、全ての国民に、無条件で現金を給付する仕組みです。一人当たり月額7万円という案がありますが、4人家族なら28万円ということになります。これは、日本国憲法のところで学習した「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と条項にもつながるものと思います。もちろん自分で仕事をして更に収入を得てもいいのです。そして、稼いだ金額に応じて税金を納めてもらうのです。</p> <p>○二つ目は、「負の所得税」と言われるものです。さっき出てきた「累進課税」の考え方を広げて、収入の少ない人には、税金を納めさせるのではなく、逆に政府からお金を支給しようというものです。それにより、最低限の生活を保障しようという考え方です。</p> <p>○このような制度があれば、安心して生活できると思いませんか。しかし、最大の問題は、そのお金をどのようにして得るかということです。ここにも税が関わってきます。</p>
<p>終 結</p>	<p>7. 本時の学習をまとめ、新たな課題を提示し、次時の学習への意欲を高める。</p> <p>○以上、税に関して学習してきましたが、現在の制度には様々な問題点があります。それを現在や将来の日本の状況を踏まえながら、どのように変えていくべきかということを考えていくことが大切です。なかなか答えが見付からない難しい問題ではあります。しかし、これは決して政治家に任せておけばよいことではなく、皆さんが自分なりに考えて、政治に反映させていくことが必要なのです。</p> <p>○ところで、これから生きていく上で、国だろうが、県だろうが、町だろうが、それぞれの家庭だろうが、皆さん自身も「お金」に関しては、二つのことしかありません。一つは、「収入を増やすこと」そして、もう一つは、「支出を減らすこと」です。</p> <p>○今日は、税金の面から「どうやって収入を増やすか」について考えてきたとも言えます。そのための私の一つのアイデアを話します。それは、現在の最高税率は45%ですが、それをもっと高くするというものです。例えば、年収10億円以上の方は、税率を90%にします。90%、つまり9億円の税金を納めても1億円も残ります。実は、この金額は、パートやアルバイトなどの形態で正規社員と同じような仕事をしている人が、一生で稼ぐお金と同じ額です。どうでしょうか。</p> <p>○次に、「支出を減らすこと」に関する私のアイデアは、現在、月額125万円ほどもらっている国会議員の給与を減らし、先程見た所得分布のグラフの平均値である550万円程度に設定する。あるいは、中央値の430万円ぐらいでもいいかな。つまり、一般国民の平均的な所得での生活を経験してもらうというものです。たとえ給与が安くても、国のために仕事をしたい、そういう人にぜひ国会議員になってほしいと思いませんか。</p> <p>○これは、私の勝手な考えに過ぎません。しかし、こうやって自分なりに考えていくことが大切なのです。次時からは、税金などの国のお金の使い方について学習していきま</p>

す。皆さんも是非、自分なりのアイデアを考えてみてください。これで終わります。

4 成果と課題（生徒の感想から）

授業後、生徒に授業に対する感想等を自由に記述させた。それを基に、今回の実践の成果（○）と課題（▲）について次のように考えた（なお、文中の「」は生徒の感想を示す）。

- 事前アンケートでは、「税が高い」「いやだ」「いない」など書いていた生徒の税に関する知識を高め、税を自分たちの身近な生活に関わる事象として捉えさせることができた。
(知識・技能)
- ・「今の安定した生活を送ることができるのは、税のおかげだということを改めて感じた。」
 - ・「累進課税や税の種類など、今まで知らなかったことをたくさん知ることができた。」
 - ・「税金で私たちの生活が成り立っていることが分かった。」
 - ・「家族などの身近なところに、税金が関わっていることを知り、びっくりした。」
 - ・「税金はいろいろなことに使われているので、なくなったらやばいなと思った。」
- 「公平」の観点等から税の役割について、多面的・多角的に考えさせることができた。
(思考力・判断力・表現力等)
- ・「たくさんのお金を持っている人と持っていない人で、税に対する感覚が違っており、数字を見ると公平に見えても、その人々の実際の生活を想像して比べてみると、全く別のものだなとも思った。現実って厳しい！」
 - ・「お金の重みが人によって違うので、『数字的には公平』という言葉に説得力があると思った。」
 - ・「税金によって私たちの生活や、国自体が大きく動かされているということが分かった。」
(※「動かされている」という表現が思考の深さを表していると思う。)
 - ・「お金がない人には、税は不公平な気がした。」
 - ・「国民全員にとって何が一番良いものなのかを考えると、とても難しいなあと思った。」
 - ・「税が高すぎるとダメだけれど、低すぎても他の問題が起きてしまうという微妙な関係なのだなと思った。」
 - ・「たとえ話が分かりやすく考えを深めることができた。」
- 税に関する諸事象について関心を持ち、その解決に向かおうという意識付けにつながった。
(学びに向かう力・人間性等)
- ・「税が公平かという点は、話を聞いた限りはどうかなあという感じがしたが、実際に払う側になったら、そのあたりをもっと調べたいと思った。」
 - ・「これからどのように税制が変わって貧富の差を縮めていくのかが気になった。」
 - ・「消費税を20%に上げてもいいので、その金でもっと良い国にしてほしい。」
- ▲ 今回の授業が、生徒の税に対する知識を高め、税に関する問題の難しさを考え、感じさせるきっかけになったのではないかと思うが、その一方で、最大の目標であった“自分事”として捉えさえるという点までは至れなかったと思う。そのためには、今回の知識を生かして、生徒たちに話し合いをさせていくことが必要であり、その話し合いがより深いものとなるように、教師側で的確なテーマを設定することも重要になってくると考える。
- ※ 今回は、教師の“説明力”(＝話術とも言えるかも)を中心に授業を展開したが、まだまだ論理の構成が不十分であり、生徒の思考過程に沿っていなかったと感じる。
- ▲ 「所得が高いほど税を多くとられるのはおかしいと思った。みんな5%でいいと思う。」「国で持っているお金が増えたら消費税は、なくていいと思う。」という感想のように、財政の仕組みについての理解が不十分であるために、お金に限りがあるということに思いが至らず、「税には助け合いの側面がある」ということについての理解も不十分になってしまっている生徒がいた。次時からの学習で、知識を修正していきたい。

ところで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に関わる対策として、国民全員に一律で10万円（結局は国の借金である）が支給されたが、本来は、生活が困窮している人（貧困層の子どもは7人に一人と言われている）に分配されるべきであったはずである。そこで、生活に困っていない人には、10万円を「寄付」という手段もあったと思うが（筆者は、子どもの貧困問題に取り組んでいるNPOに寄付した）、寄付文化が普及していない日本では、その割合は、ほんのわずかであったようである。このような状況を踏まえると、国がある程度の強制力を持って、「所得の再分配」をする必要があると思う。実際に、それが財政政策の一つでもあるが、その政策の意義を「助け合い」の視点からもっと生徒たち（国民）に伝え、同意を求めていく必要があると考える。

- ▲「税なんてどうでもいい。」「自分ではどうしようもない。」これは税だけに限った話ではなく、社会事象に関する興味・関心、ましてや当事者意識などほとんどない生徒が少なからずいる。これらの生徒の意識を少しでも変えていくにはどうしたらよいのだろうか。社会科、特に公民的分野の学習を進めていく上で最大の課題である。

5 おわりに

ここ数年、社会事象に関する生徒たちの認識の低下を強く感じる。そして、この用語や事象については、生徒たちも“一般常識”として知識を持っているだろうという教師側の認識が、悉く打ち砕かれていく。生徒たちに家庭での生活の状況を聞いてみると、家庭での生活時間の大半が、ゲームやスマートフォン（生徒によっては、さらに学習塾等の習い事）に費やされている。さらには、テレビを見ないという生徒も多い。新聞に至っては購読していない家庭が多い。ひと昔前の生徒たちは、テレビが娯楽の中心であり、その中で、時にはニュース番組を見ることで、社会事象に関する様々な知識も得ていたが、現代の生徒たちにはそれを望めない状況にある。そうなってくると、学校での授業等を通して、生徒たちに、社会事象に関する「基本的な知識を与え、身に付けさせ」、さらに、それをもとに、当事者として「考えさせていく」ことが極めて重要になってきており、租税教育もその例外ではないと言えよう。

思えば、二十数年前に実践した際にも、税をはじめ社会における諸問題を「自分事」としてとらえさせたいという思いで授業を行ったわけだが、正直、現在の方が、その実現がさらに難しくなっていると感じる。しかし、何とか、それを打破していくための「きっかけとなるような授業」を今後も模索し、積み重ねていきたいと思う。